

鹽瀨饅頭

日本第一饅頭の根元
日本橋通壹丁目鹽瀨山城略中

鳥飼饅頭

本町壹丁目 鳥飼和泉

東武市中の製にては、此家を最上とす、

桔梗屋饅頭

本町壹丁目 桔梗や河内

壺屋饅頭

元飯田町 壺や六兵衛

猿屋饅頭

浅草駒かた 子持真さるや

〔江戸名物詩 初編〕鳥飼和泉饅頭 本町三丁目

鳥飼和泉無鳥飼饅頭日々注文多、唯歡皮薄餡尤好、荷出蒸籠日幾荷、

鹽瀨饅頭 南傳馬町四丁目

傳馬町頭鹽瀨店、饅頭元祖製尤新、每朝蒸立皮如解、爭買世間下戸人、

〔骨董集 上編上〕金龍山米饅頭

或説に江戸の名物米饅頭の根元は、浅草聖天金龍山の麓鶴屋なり、慶安の比、此家の娘におよねといへるあり、此女始てこれを製す、およねがまんぢうといへり、此説うたがはし、左に摸し出す圖のごとく、○圖延寶の頃までは辻賣なり、米をよねといふ、米まんぢうと云も、米のまんぢうと云義にて、女の名によりてよびたるにはあらざるべし、常のまんぢうは、こむぎのこ麴にてつくれば也、紫の一本天和に、聖天町にてよねまんぢうを商ふ、根本は鶴屋といふ菓子屋也、
根本はふもとの鶴やうみぬらんよねまんぢうはたまごなりけり 遺佚
か、ればはやく天和の比は、居店にて賣たるならん、江戸鹿子貞享四年印本米饅頭屋浅草金龍山ふもと也、同所鶴屋とあり、江戸咄先板は故郷歸江戸咄と題す、後増補元祿七年の本あり、卷の五に、眞土山云々、爰の山の麓のよねまんぢうは江戸中にかくれなき名物也云々、ひと、せはやり小うたに、金龍山で同道しよ、も